

## 医療機関の資材管理と資金管理を支援

株式会社エーエヌディーは、2013年設立の医療機関向けのシステムメーカーである。医療物流業界においては、他産業に比してIT技術を活用した業務効率化が浸透しておらず、同社はIT技術により、医療業界を「労働集約型」から「装置産業型」に転換させることで、クライアントに売上向上のみならず、コスト削減に主眼を置いたサービスを提供している。

同社の代表的なサービスは、医薬品や医療材料の購買管理等を行うSPDシステムと、納入業者の売掛金回収サイトの短縮及び医療機関の買掛金支払サイトの延伸をSPDシステムに組み込んでいるフィンテックサービスであり、設立4期目で売上100億円を突破するなど、急成長を遂げている。

▼RFIDを活用したSPDシステム

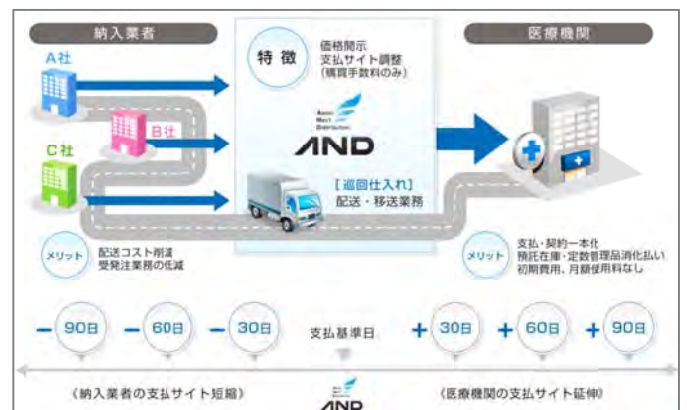


### プロジェクトの経緯

同社は、医療機関向けのSPD（Supply Processing Distribution）システムによる医療資材の受発注や、在庫等の物流管理のソリューションサービスを主要事業としている。同社のSPDシステムには、RFID（Radio Frequency Identification）を活用した専用機器もあり、RFIDタグが付いた医療資材を倉庫から持ち出したり、消費したり倉庫に戻したりすると、センサーが反応し、常にリアルタイムの在庫状況を把握できる仕組みとなっている。煩わしい伝票処理が簡易となり、また、手術に使用した資材を自動的に正確に記録し、請求にかかる作業も省力化でき、削減できた人的リソースを本来の業務に投入できるようになるシステムである。さらに、クライアントからの要望もあり、医療機関の真のニーズが物流管理ではなく、資金管理であることに気付いた同社は、現在では独自のフィンテックサービスを組み込んだシステムにも注力している。

医療機関側からみた「買掛債務」と納入業者からみた「売掛債権」の取引を仲介し、それぞれの支払いサイトを延伸または短縮するサービスを提供している。金融機関と連携して特定目的会社（SPC）を設立し、これまで医療業界において、取扱点数の多さや管理の煩雑さから困難とされてきた売掛債権の流動化スキームを確立した。具体的なサービスとして、医療資材（医薬品、医療材料）を対象とする購買代行サービス「smile20」、医療機器（設備投資）を対象とする購買代行サービス「TrustME」、診療報酬債権ファクタリングサービス「Challenge20」を提供している。

▼smile20の仕組み



資料）(株)エーエヌディー提供

## 導入理由の一例

医療機関においても、仕入れ先からは早期の資金回収を求められる一方、収入、即ち診療報酬は請求の2カ月以上後に入金され、その診療報酬も、請求業務において不備が発生し、予定していた資金回収が叶わない場合には資金繰りに苦慮することとなる。そうすると医療機関は複数の購入先に対して支払日を再調整する必要があり、資金管理の面で相当な労力がかかる。このような例をはじめ、資金繰りの課題を解決することが可能な、同社が提供するソリューションサービスを導入する医療機関が増えてきており、高い評価を得ている。

## システムの概要と導入メリット

同社のフィンテックサービスは、既存のSPDシステムに金融サービスを付加したものである。他社のSPDシステムは、医療機関の在庫管理に力点を置いているが、同社のSPDシステムは、在庫管理に加えて資金運用面でも自由度が増す。支払いサイト（取引代金の締め日から支払日までの猶予期間）の延伸は、地域の金融機関と連携したストラクチャードファイナンス資金を利用することで可能になった。同社が、医療機関の買掛債務を、売掛債権として引き受け、この売掛債権を、SPC（特定目的会社）に譲渡する。SPCがその売掛債権を証券化するという流れである。

本サービスは、支払いサイトの見直しにより医療機関が慢性的に抱えるキャッシュフローの問題を改善させることができる。医療機関は、支払いサイトのコントロールによって生まれる資金余力により、優秀な人材の獲得や効果的な設備投資を実施することができるようになり、業務改善と質の高い医療サービスを提供できるようになる。同社のシステムはクラウド型のシステムであり、ライセンス数に合わせた月額利用料負担モデルのため、ITの初期投資負担が低く、中小規模の医療機関でも採用し易いように工夫されている。さらに小規模なクリニックや診療所に対しては、簡易版のSPDシステムを無料で提供し、プライベートブランドの医療資材を販売することで収益を得ている。

## 本プロジェクトの今後の展開

アジア諸国での医療課題を解決するために、国内で培ったノウハウをアジア諸国へ広め、医療の発展に貢献することが同社の使命と捉えている。そもそも、「エーエヌディー（AND）」の社名は、ヒト・組織をマッチングすることで新しい価値を創出する姿勢を意味した「&」とは別に、「Asian Next Distribution」のそれぞれの単語の頭文字を取った略称でもあり、アジアにおいて、次代の医療物流を実現するという強い思いが込められている。将来的に医療ビジネスが盛んになるのも、アジア諸国であると睨んでおり、今後も福岡を拠点に、アジア市場をメインとした事業展開を行う。中国に貿易子会社の設立を予定するなどアジア進出に伴う事業拡大を踏まえ、2020年には株式上場と国内外合わせて約1,000億円規模の売上高を目指している。

2016年10月には、多くの医療従事者に新たな情報や体験を提供することを目的に、本社が入居するビルのフロアにおいて「先端医療デザインセンター」をオープンした。先進医療機器を展示しており、それらを利用してトレーニングやシミュレーションを体験することができる。医療や介護に関わる人材や企業との接点を生み出すことも目的としており、新たなビジネス機会の創出の場となることを想定している。

### ▼先端医療デザインセンターの風景



資料）九経調撮影

株式会社エーエヌディー 経営企画本部

<http://www.andinfo.co.jp/>

〒812-0007 福岡県福岡市博多区東比恵3丁目1番2号 東比恵ビジネスセンター8階